

**RiPPo**

Ritsumeikan University Graduate School of Public Policy Alumni

**CONTENTS**

Page1 会長挨拶

Page2 鶴養研究科長 × 古岡校友会会長対談
新任教員のご紹介Page3 新幹事のご紹介・長濱人語
北村篤司のお仕事探訪

Page4 校友会からのお知らせ



公務研究科校友会 会長
古岡 俊平

おかげさまで、立命館大学公務研究科校友会は3年目の夏を迎えることができました。皆様からのご支援に感謝申し上げます。校友の数も増え、公務の輪も広がりつつある立命館大学公務研究科校友会をこれからもよろしくお願い申し上げます。

さて、私は最近、この4月から公務研究科研究科長になられた鶴養先生と対談をさせていただきました。(対談の様子は2ページ) 久々の再会で時間が過ぎるのを忘れ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

この夏、3度目となる総会を開催します。久々の先生や多くの校友との再会はきっと、素敵な思い出になると思います。

皆様にお会いできますことを、心より楽しみにしております。

RiPPo事務局

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

TEL 075-813-8274

Email rippo@st.ritsumei.ac.jpURL <http://www.ritsumei.ac.jp/gspp/rippo/>

Special Topics

いつの間にか七年目。
気がつくとかくさん
の校友が活躍してい
ることをうれしく思
っています。
(鵜養)



鵜養幸雄 Yukio Ukai
公務研究科 研究科長

古岡俊平 Shunpei Furuoka
公務研究科校友会 会長

公務研究科校友会は
皆さんとのタイムマ
シーンなんです。
(古岡)

鵜養研究科長 × 古岡校友会会長対談

「公務研究科が描く未来」

古岡校友会会長（以下 古岡）
お久しぶりです。
気がつけば研究科長になられて：
鵜養研究科長（以下 鵜養）
私も驚いているんです（笑）創設七
年目になりました。当初からずっと
ここにおられます。偉大な水口先生の
業績をけがさないように心がけてい
る毎日です。
古岡
今後の公務研究科がどのような方向
に向かっていくのかお伺いさせて頂
けますか？
鵜養
あえてわかりにくい言い方になっ
てしましますが、科のコンセプトを確
認してより深めていく過程で、表現
自体はさらに抽象的になってきてい
ます。
古岡
と言いますと…？
鵜養
「志を持った有能な人材の育成支援」
と言っています。社会に出て真に役
立つ人というのは、しっかりした気
持ちを持ち続けながら、いわゆる優
秀さではなく、自ら考え、調べ、判
断し、行動する人材です。日々その
ような人になるお手伝いをできるよ
う努力しています。
古岡
そのようなやり方は学内でも注目さ
れていると聞いていますが。
鵜養
単に知識を増やす、スキルを身に付
けるということよりも、一人一人が
それぞれに、伸びていくために必要
なことを行うようにしていますが、
そのことを認めていただいた、とい
うと綺麗ごとすぎますか（笑）しか
し、現実に校友達の活動を拝見して
も、これが裏付けされていると思い

ます。
古岡
今年度、五期生も仲間入りし、校
友の数も増えてきていますが、公
務の世界に留まらず、多方面で活
躍されています。
鵜養
おかげさまで、公務研究科という
名前の認知度も高まっています。
それにしてもあつという間の七年
目ですね。
古岡
七年目というのをあまり感じませ
んね（笑）僕は、公務研究科校友
会はタイムマシンのようなもの
だと思っているんです。過去と繋
がりつつ、未来へ進む、そんな装
置が校友会だと思い運営していま
す。
鵜養
さすが古岡さんらしい表現ですね。
すでにタイムマシンに乗って、
かつて一緒だったリサーチプロジ
ェクトに戻ったようです。
古岡
『社会認識の歩み』でも読みまし
うか？（笑）
鵜養
こうして、いつもいつも繋がって
いるということは嬉しいことです。
古岡
校友会は今後も研究科の活動を見
守っていますので、よろしくお願
いします。
鵜養
こちらこそよろしくお願ひします。

取材日 2013年6月14日
場所 立命館大学 朱雀キャンパス
取材・原稿 古岡 俊平
写真 一谷 耕

新任教員のご紹介



鈴木 英之

内閣府（経済企画庁）から来て、4月か
ら経済関係分野を担当しています。憧れ
の古都、京都で、キラキラした若人とと
もに、今を考え未来を語りたいと思いま
す。院生も夢いっぱいでしょうが、私も
夢いっぱいです。



高嶋 直人

人事院では各府省の公務員や外国の公務
員を対象とした研修業務を8年程やって
いました。以前、ある雑誌に「私の公務
員論」という連載をしていましたが、当
研究科でも「公務員論」を担当すること
になりました。